

コロナウィルスの件は、今日最大の問題になっていますが、これにつきご参考までに私見を述べさせていただきます。

要旨は、「**コロナウィルスの感染拡大は、今後ともつづき、1年を超える長期にわたる可能性があり、その覚悟で、対応を考える必要がある**」ということです。

背景を述べれば

報道などでは、とかく、政治的な思惑やそれぞれの期待や願望から、短期にコロナが終息するような予測などが飛び交うと思いますが、非常に危険だと思えます。

私の知るところ、現在日本では、コロナの感染検査が最小限にしか行われていません。

(韓国、ドイツなどに比して、1/10あるいは1/20以下といわれます。)

コロナと思われる症状が出た人のそのまた一部しか検査されていない状況にあります。

ということは、軽症状あるいは無症状の感染者(陽性者)が殆ど把握されておらず、野放し状態にあると言わざるを得ません。

すなわち、現在報道されている「感染者数」は、感染者の総体を示しているのではなく、そのごく一部の氷山の一角した表現してないということになります。

・感染者(敵)の全体をできるだけ把握し、これを抑え込むという感染症対策の

第一の基本原則ですが、これが全く本来のレベルでは実施されていません。

従って、可視化されない、潜在的な感染者が、広く蔓延している、そして、それがさらに感染を深く拡散していく情勢にあると思えます。

それ故に、私たちは、感染者の集合体は雲のように広がり、感染者がどこにでもいる情勢にあり、感染が終息するには想像以上に長期にわたることを頭に入れて対応する必要があると思えます。

(参考)

大阪大学元総長・平野俊夫教授(医学博士、免疫学、腫瘍病理学)のコメントをご紹介します。

<http://kozu5.my.coocan.jp/OhtaProfHiranoCorona.pdf>

7ページあり、少し長いですが、結論の中の次の部分を注目する必要があると思えます。

「4)今後、終息までに1-2年はかかるので、長期戦(1万メートル競争)と考えて心の準備や日常生活を可能な限り正常に続ける工夫、そして仕事も可能な限り正常な活動ができる個人的な工夫(会社/組織/国としての工夫は当然必要)をしていかなければならない。

この間、各地域では流行の波を起こしながら、世界中のどこかで流行している状態が続く。

したがって日本で流行が終息したとしても海外からウイルスが流入するし、国内でもまた流行が起こる。このように流行の波を作りながら最終的に国民の30-60%が感染して免疫を獲得するまでは終息はしないと考えられる。」とあります。

それでは皆さま、感染力が非常に高く、特に免疫力の弱い人間、高齢者には容赦なく襲いかかるこのコロナウィルスという大敵に対して、想像以上に長期戦になることも覚悟の上で、辛抱よく対応して、生き残ろうではありませんか。

【追記】もし万一、コロナウィルスに感染した場合は、できるだけ早く、患者側からも医者に出、アビガン(錠剤)を大量に、投与してもらってください(標準: 5日間 40錠)。特に、高齢者や、基礎疾患のある患者は、呼吸困難になる重症化が早いですから、特に早期の対応が必要です。

*アビガンは、抗ウィルス剤であり、現在コロナウィルスについては、治験中ですが、日本でも治療への投入が始まっており、中国、ドイツ、米国等でも治療に使用され、効果が出ている数少ない治療薬で

す。

以 上